埼臨技だより

発行所　公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会　〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077　FAX 048 (824) 4095　URL:http://www.sairingi.com/
携帯URL:http://www.sairingi.com/keitai/index.html　Twitter : @sairingi

年 頭 挨 拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会 長　津 田　聡一郎

新年あけましておめでとうございます。

会員、賛助会員の皆様におかれましては、どのようなお正月を迎えられましたでしょうか？

昨年は、日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第54回）を埼臨技が担当県として10月28・29日にラフレさいたまで開催いたしました。２週連続で週末に台風が迫るという悪天候の中1600名を越える参加をいただきました。参加していただいた方々、支えていただいた方々に改めまして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、昨年６月公布された「医療法等の一部を改正する法律」というのをご認識されていますでしょうか。特に検体検査についての扱いが大きく変わりました。まず、「検体検査」という単語が医療法の中に載りました（第15条の２）。これは臨床検査技師等に関する法律（臨検法）を引用して記載しているものです。臨検法の中では「検体検査」と「生理学的検査」という単語で検査技師の業務を記しています（第２条）。さらに改正医療法では「検体検査の精度の確保の方法」という文言で、医療機関にも義務付け要求しています。具体的に何をしなくてはいけないのか、については「検体検査の精度管理等に関する検討会」が厚労省内で開かれていて今年度３月までに取りまとめ、夏にパブリックコメントを実施し、冬には法律、省令を施行する、というスケジュールが示されています。私たち検査技師の根幹の部分とも言える法律・省令が動き出していることを認識していてください。

もう一つの業務分野である検体採取について、その業務範囲の拡大のための講習会修了率が埼臨技は53.3％（全国平均57.1％）と低調です。この講習会を修了する事が技師免許で認められる業務幅を広げる事です。あと２年すると新卒生が拡大された技師免許を持って社会に出てきます。その時に講習の機会はぐっと少なくなります。技師免許の範囲二重化を避けるために講習会に臨んで欲しいと思います。

今春は６年に一度という診療報酬と介護報酬の同時改定の年です。2025年問題を前にして国の医療制度が大きく舵取りをする、と言われています。私たち検査技師は、政治や政策に疎い、と言われ続けて来ていますが、ここは周りの状況・環境の変化を見て聞いて、明日のこと来年のことその先のことに注目しなくてはいけない時だと私は思っています。

とはいえ、日々の仕事のこと今月のこと今年のことを踏まえた埼臨技の活動へのご支援もよろしくお願いしたいと思っております。

昨年一年は皆様にとって「ケッコーな」酉年でしたでしょうか？ 今年は戌年ですから「ワンダフル」な一年にしなくてはなりません！

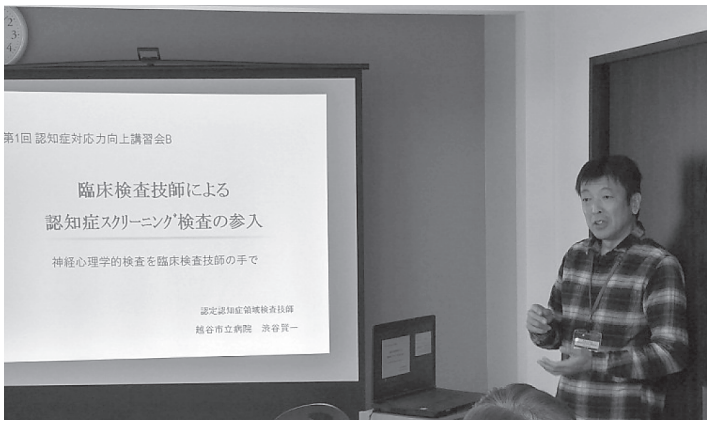
本年も役員一同、会務・事業に精一杯取り組んでまいります。会員、賛助会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

「認知症対応力向上講習会Ｂ」が開催される

厚生労働省の報告によると2025年には認知症の方は約800万人に達すると言われており、「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が策定され認知症対策は国をあげての喫緊の課題（国家戦略）となった。

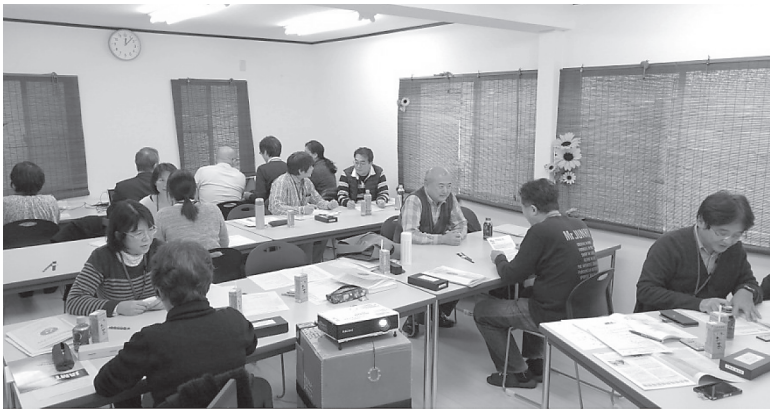
日臨技では事業の一環として、2014年度より認知症領域検査技師制度を立上げ、認知症の早期発見・予防・治療に臨床検査技師が多面的に参画・貢献できるように進めている。今年４月、認定取得技師を対象に各技師会からの推薦者を中心に認知症対応向上講習会Ａ講習を開催し２年以内に伝達講習会としてＢ講習開催を義務付けられた。これを受け埼玉県臨床検査技師会では、11月26日（日）埼臨技事務所を会場に「臨床検査技師のための認知症対応力向上講習会Ｂ」を、埼臨技推薦でＡ講習を受講していただいた渋谷賢一氏（越谷市立病院）、実習サポート役として同講習会を受講した船生広征氏（大宮中央総合病院）の２名の講師により午前９時～午後７時30分まで開催した。講義の大部分は神経心理学的検査（HDS-R、MMSE、物忘れ相談プログラム検査、ADAS、TDAS）に関してのDVD視聴・実習であり、その中DVD視聴が60％を超えるカリキュラムであったが、途中でDVDを止め渋谷氏によるポイントの確認や質疑応答を挟んでいただいたことで飽きることの無い視聴となった。

実習では上記神経心理学的検査を検者・患者役と体験し、検者側から見た時、実際の患者と対応する時の難しさを体験できた。また患者役の時は各々口にはしなったが心の中ではもしその兆候があったら如何しようかとヒヤヒヤだったと思われる。



渋谷氏より「臨床検査技師による認知症スクリーニング検査の参入～神経心理学的検査を臨床検査技師の手で～」という演題で自施設での取り組みについての講演があり、今後施設内で参入する際のアドバイスとなる内容であった。

この研修会は来年度も開催予定であり、参入を考えている施設の会員の背中を押せる研修会となればと思っている。



（文責：矢作強志）

平成29年度 第2回 検査室運営研修会のお知らせ

“最新の医療安全について学ぼう！！”
最近の医療安全の考え方；レジリエンスの実践について！！
～ 今までと違う医療安全の考え方を学ぼう！！ ～

検査室管理運営委員会では管理職のみならず、新人から各々の責任者まで検査室を運営する皆様を対象に研修会を企画しております。平成29年度　第２回　検査室運営研修会は、医療安全をテーマに、下記のとおり開催いたします。

講師には医療安全の分野で活躍中の長谷川剛先生（医療法人社団愛友会　上尾中央総合病院　院長補佐　兼　情報管理部部長）に最新の医療安全の考え方、レジリエンス（状況に応じて臨機応変に対応する能力）の実践についてご講演をお願いしています。

昨今、医療法が改正され臨床検査技師の業務も大きく変化してきており従来から行われていた生理機能検査および採血にインフルエンザ等の検体採取業務等も追加され私達の業務の範囲は大きく広がったものの「人員不足」、「機能分化による業務の複雑化」、「医療技術の高度化」により検査に係わるインシデントが多く発生しています。

要因としては、チーム医療と叫ばれている半面、各部署間のセクショナリズムなど従来からの慣習が根強く残ることもあり組織文化の変革が急務です。そこで今回、新しい医療安全の考え方について解りやすくお話ししていただきます。

中堅技師から管理職の皆様の参加は勿論のこと、将来検査室を背負っていく若手検査技師の皆様にも研修会に参加していただき、医療安全文化の流れの中で、自分達の立場・状況を再確認していただく良い機会になることを祈念します。

記

開催日時　：　平成30年２月20日（火）　19：00 ～ 20：30
開催場所　：　大宮ソニックシティ 602号室
講　　師　：　長谷川　剛
（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 院長補佐 兼 情報管理部部長）
司　　会　：　濱田　昇一（上尾中央医科グループ メディカルトピア草加病院）
参 加 費　：　会員300円　非会員：5,000円

第46回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：平成30年12月２日（日）
会　場：大宮ソニックシティ
テーマ：『拓（ひら）く』～ 手を広げ、見て、聞いて、知って、覚えて、繋がって ～

第46回埼玉県医学検査学会
学会長　鈴木　英之

新年明けましておめでとうございます。この度第46回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただくことになりました、さいたま赤十字病院の鈴木英之と申します。津田会長並びに理事の皆様のご指導の下、昨年11月下旬に第１回実行委員会を始動させていただき、委員から提案された多数の素晴らしいテーマの中から、今回の学会のテーマを『拓（ひら）く』と決定しました。

現在の臨床検査技師を取り巻く環境は、急速にかわりつつあり、ＡＩ技術の発達、チーム医療への参入、ISOなどの検査室における品質管理、法律改正に伴う業務拡大など各施設の対応能力が問われ、まさに変革の時期に来ております。

各地で検体採取等に関する厚生労働省指定講習会が行われておりますが、まもなく臨床検査技師の教育課程を卒業し国家試験を取得した段階で、その資格を与えられる技師も誕生します。このような若い人材を次世代に繋げていくためには、今まで培ってきた技術の伝承は勿論のこと、これから先、臨床検査技師に求められる新しい体制に、皆が真剣に向き合って行かなければならない時代がすぐそこまでやってきています。与えられた資格をどう活かしていくのか・・・

20年、30年さらにその先の臨床検査技師の未来永劫に気持ちを込め、少しでも道標になるようにと、今回の学会のメインテーマを『拓く』としました。そしてサブテーマは、～手を広げ、見て、聞いて、知って、覚えて、繋がって～　古きを知り新しきことを受け入れる。

埼玉県医学検査学会としての開催は２年振りとなります。実行委員18名が力を合わせ全力で取り組んで参りますので、会員の皆様方の多くの参加をお待ちしております。ご協力の程よろしくお願い致します。

第46回 埼玉県医学検査学会実行委員一覧

役　　職	氏　　名	勤　　務　　先
学会長	鈴木　英之	さいたま赤十字病院
実行委員長	長岡　勇吾	さいたま赤十字病院
副実行委員長	神嶋　敏子	埼玉県立小児医療センター
事務局長	阿保　一茂	さいたま赤十字病院
事務局・運営	川口　宏美	さいたま赤十字病院
会計部長	大谷　真澄	埼玉県立小児医療センター
会計	中山　清美	さいたま赤十字病院
運営部長	木暮　憲幸	戸田中央臨床検査研究所
運営	曽木　広信	さいたま赤十字病院
運営	今上　絵理	さいたま市立病院
運営	長谷川　卓也	上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院
運営	小澤　史佳	埼玉県立小児医療センター
学術部長	永井　謙一	埼玉県済生会川口総合病院
学術	堀内　雄太	川口市立医療センター
学術	熊谷　佳奈江	越谷市立病院
学術	川音　勝江	JCHO 埼玉メディカルセンター
学術	急式　政志	埼玉県立小児医療センター
学術	岩崎　篤史	自治医科大学附属さいたま医療センター
学会担当理事	長岡　勇吾	さいたま赤十字病院

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ　「菌力」アップトレーニング！！

主催　微生物検査研究班

実施日時：平成29年11月22日　　19時00分～20時30分
会　　場：大宮ソニックシティ 604号室　　点数：専門教科－20点
講　　師：大楠　清文（東京医科大学 微生物学分野 教授）
参加人数：会員78名　賛助会員８名
出席した研究班班員：渡辺典之　金田光稔　砂押克彦　小西光政　牧俊一　酒井利育　森圭介
小棚雅寛　毛利光希　永野栄子

研修内容・感想など

今回は「菌力アップトレーニング！！」というテーマで大楠医師にご講演いただいた。菌トレの他に最新トピックスとして、微生物検査の自動化の潮流や血液培養検査、CLSIの最新情報、今年話題になった感染症についてもお話していただいた。微生物検査の自動化はドイツの病院での導入例が紹介された。検体塗布、培養、経過や結果までの全工程にわたり自動化され、培養後の培地はパソコンからデジタル画像を見ながら菌名や菌量を入力することにより、微生物検査室にいなくても仕事ができるとのことであった。血液培養検査装置では、まだすべての菌名同定ではないが、血液培養陽性になった培養液を用いて約３時間で菌名同定が可能であった。なかでも興味深かったのは、ASM学会報告で、培養ボトルに設置された臭気センサーで、臭いを濾紙に色分けして、培養と菌種同定を同時に実施できるシステムであった。また、イヌが嗅覚で菌を嗅ぎ分けることができるとの報告では、驚くべきことに感度、特異度が90％以上であるとのことであった。

大楠医師はCLSIの国際委員であり、６月に行われた会議の報告では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の確認検査としてimCIMが追加され、mCIMと併せてimCIMを行うことで、metallo-β-lactamasesが同時検出できることなどがあった。また、imCIMでのEDTA濃度の変更（0.1mM→５mM）について解説していただいた。

今年話題となった感染症として、感染者数増加の梅毒、ハチミツによる乳児ボツリヌス症、食中毒のウエルシュ菌、アニサキス、SFTS・日本紅斑熱について事例を基に説明していただいた。菌トレでは、微生物検査において“臨床情報”、“染色像”、“集落＆五感”から起炎菌同定に至るための菌力アップトレーニング「菌トレ」と称して日常的なものから稀な症例についてＱ＆Ａ方式で学んだ。質量分析でも鑑別できない菌種も従来からの生化学的性状で同定することができるため、基本的な同定検査の手技を身に付けることはとても重要であると感じた。

大楠医師の講演は各種学会・研修会等で大変好評であり 、今回も多くの方に参加いただき、大盛況であった。　（文責：永野栄子）

テーマ　臨床化学検査の標準化について学ぼう
ビリルビン測定と標準化の話題

主催　臨床化学検査研究班研修会

実施日時：平成29年12月７日　　19時00分～20時30分
会　　場：大宮ソニックシティ 905号室　　点数：専門教科－20点
講　　師：本田　亨（株式会社LSIメディエンス 学術部）
参加人数：会員30名　賛助会員３名
出席した研究班班員：巖崎達矢　柴田真明　永井謙一　安田達明　大谷真澄　大出淳　藤本丈志
小林麻里子　羽田幸加

研修内容・感想など

臨床化学検査の標準化を学ぼうというテーマのもと、今回は「抱合型の分別定量可能な直接

ビリルビン測定試薬と標準化」について本田氏に講演していただいた。最初に、基礎的な部分としてビリルビンの生成と代謝についての説明があり、続いてビリルビン値の変動による病態の関係をわかりやすくお話しいただいた。ビリルビンは肝臓でのグルクロン酸抱合を受けた抱合型ビリルビンとグルクロン酸抱合を受ける前の非抱合型ビリルビンがあり、その値を測定することで疑われる疾患を予測することができる。しかし、抱合型ビリルビンにおいては、抱合型ビリルビンがアルブミンと結合して生成されるδビリルビンの存在や、測定原理によって測り込みに差があることなどから、正確な診断をするうえでの問題点も指摘されている。抱合型ビリルビンのみを測定できる特異的酵素法が、非抱合型ビリルビン優位の病態（溶血性黄疸など）と抱合型ビリルビン優位の病態（胆管系疾患など）を明確に判断するのに適しているとの話を、測定データを比較しながら説明していただいた。

また標準化に関して、そのような現状を受け2014年４月から立ち上がった日本臨床化学会専門委員会では抱合型ビリルビンを分別定量できる試薬が標準的測定法として推奨していく方向で考えられているとの話があった。さらに日本消化器病学会や肝臓病学会の両学会でも抱合型ビリルビンを特異的に測定する事が望ましいとの見解で一致しているとの説明をいただいた。

現在ビリルビン測定法にはジアゾ法からはじまり、酵素法・化学酸化法・HPLC法と多くの測定法があり、また酵素法の中にもδビリルビンを測りこむ方法と測りこまない方法が存在する。さらに、項目の名称でも直接と間接、抱合型と非抱合型など統一されていないという問題点もあり、一刻も早い標準化が望まれる。今後の標準化動向に注目したい。

今回の研修では、ビリルビンの基礎から標準化について幅広い内容を説明していただいた。また、測定原理別での測定値も提示されていたので、自施設で採用している試薬の測定原理を確認していただき、測定されたデータの特性を良く理解したうえで臨床側に報告していただきたいと思う。

（文責：藤本丈志）

求人案内

○埼玉東部循環器病院
採用条件：正職員
連 絡 先：048－960－7100
人事採用係　田中

○社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス
東埼玉総合病院
採用条件：正職員
連 絡 先：0480－40－1311
総務課　採用担当

○医療法人 柏成会　青木病院
採用条件：正職員
連 絡 先：0495－24－3005
事務部　総務　梶山・塩澤

○社会福祉法人　埼玉慈恵病院
採用条件：正職員１名
連 絡 先：048－521－0321
内線205　総務課　小暮
内線130　検査科　高田

○医療法人 山柳会　塩味病院
採用条件：正職員　臨時職員（パート）非常勤職員
連 絡 先：048－467－0016
法人人事部長　神谷秀悟

○医療法人　熊谷総合病院
採用条件：正職員
連 絡 先：048－521－0065　内線2131
総務課　関口

○特定医療法人 俊仁会　埼玉よりい病院
採用条件：正職員
連 絡 先：048－579－2788　事務長　井上

○一般社団法人　浦和医師会メディカルセンター
採用条件：臨時職員（パート）
連 絡 先：048－824－1629　内線310　鈴木

○一般社団法人　大宮医師会メディカルセンター
採用条件：非常勤職員
連 絡 先：048－665－6559　廣田・吉田

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

平成29年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第９回　理事会議事録

日　時：平成29年12月14日(木) 18時30分より
場　所：JCHO埼玉メディカルセンター
さいたま市浦和区北浦和4-9-3
議　題：Ⅰ．行動報告　Ⅱ．報告事項
Ⅲ．承認事項　Ⅳ．議題
出　席：(理事)津田　岡田　矢作　小山　奈良
猪浦　長岡　松岡　小島　石井
濱本　藤井　神嶋　長澤　伊藤
山口　鳥山　阿部
(監事)遠藤　細谷
欠　席：(理事)神山　島村　濱田　武関

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第１項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第１項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ．行動報告（平成29年11月9日～平成29年12月13日）

11月９日(木)平成29年度第８回理事会：
津田、島村、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、松岡、小島、石井、濱本、藤井、神嶋、伊藤、濱田、山口、鳥山、武関、阿部、遠藤

11月９日・10日(木・金)医療現場における職能向上のための臨床検査技師育成講習会（多職種業務を知る）企画担当者研修会：岡田

11月10日(金)平成29年度全国検査と健康展前日準備：藤井、長澤

11月11日(土)平成29年度全国検査と健康展：
濱本、藤井、長澤、神嶋、濱田、石井、津田、神山、岡田、矢作

11月18日(土)第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会会計部作業：
松岡、小島、石井

11月20日(月)第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会会計部作業：
松岡、小島、石井

11月21日(火)第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会第10回実行委員会：
津田、濱本、小山、神山、岡田、矢作、奈良、猪浦、長岡、小島、石井、藤井、長澤、伊藤、濱田、武関、阿部

11月23日(木)第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会会計部作業：松岡

11月25日(土)平成29年度認知対応力向上講習会Ｂ前日準備：矢作

11月26日(日)平成29年度認知対応力向上講習会Ｂ：津田、神山、矢作、小山、奈良、長岡

11月30日(木)第46回埼玉県医学検査学会第１回実行委員会：津田、長岡、神嶋

12月３日(月)第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会会計部作業：松岡

Ⅱ．報告事項

１　事務局

1)平成30年日本衛生検査所協会賀詞交歓会へ津田会長が出席する事とした。
日　時：平成30年１月５日(金)
午後15時～
会　場：アルカディア市ヶ谷
３階「富士」

2)平成30年埼玉県看護協会新年懇話会へ津田会長が出席する事とした。
日　時：平成30年１月13日(土)
午後12時～
会　場：ブリランテ武蔵野
２階「ブリランテ」

3)(一社)千葉県臨床検査技師会法人化30周年記念式典・祝賀会へ津田会長、神山副会長が出席する事とした。
日　時：平成30年２月10日(土)
午後４時～
会　場：三井ガーデンホテル千葉
３階「平安の間」

4)第９回埼玉輸血フォーラムへ後援の回答をした。

２　総務部

1)「埼臨技だより」第463号、12月15日発行予定

2)11月26日、平成29年度認知対応力向上講習会Ｂを開催した。

３　事業部

1)11月11日、平成29年度全国「検査と健康展」を開催した。

2)11月22日、平成29年度全国「検査と健康展」決算書を日臨技に送付した。

3)平成29年度全国「検査と健康展」名義後援団体に御礼状を送付した。

４　学術部

1)平成30年２月・３月生涯教育研修プログラム、12月15日発行予定

2)埼臨技会誌Vol. 64 No.2 2017、12月15日発行予定

3)地区別研修会開催について
北部地区：平成30年２月10日(土)
13時30分～　深谷赤十字病院
東部地区：平成30年２月24日(土)
13時30分～　獨協医科大学埼玉医療センター

５　精度保証部

1)特になし。

６　会計部

1)平成29年度正会員費８名分40,000円、入会金８名分8,000円、合計48,000円の入金があった。

2) 生涯教育推進研修会助成金50,000円×１研修会、49,000円×１研修会、合計99,000の入金があった。
3) 石井印刷へ、埼臨技だより462号印刷代121,947円を支払った。

7　精度管理委員会
1) 特になし。

8　一都八県会長会議
1) 特になし。

9　日臨技関甲信支部
1) 特になし。

10　日臨技
1) 特になし。

11　第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会
1) 11月21日、第10回実行委員会が開催された。
2) 決算書を日臨技へ提出した。

12　第46回埼玉県医学検査学会
1) 11月30日、第１回実行委員会が開催された。
2) 予算案について

Ⅲ. 承認事項

1　事務局
1) 会員動向(平成29年度分)
平成29年12月１日現在
会員数 2,914名
(新入会員 268名[平成28年度会員数2,730名])
賛助会員　86社[平成28年度 82社]
承認された。

2　総務部
1) 特になし。

3　事業部
1) 平成30年埼臨技賀詞交歓会・各賞記念受賞記念祝賀会について
一部手直しを行うことで承認された。

4　学術部
1) 第67回日本医学検査学会座長推薦について
臨床化学：116844　石川　純也
(上尾中央医科グループ 株式会社アムル)
血液：114770　網野　育雄
(埼玉医科大学国際医療センター)
免疫：701578　鈴木　淳子
(株式会社ビー・エム・エル)
生理：115067　野本　隆之
(吉川中央総合病院)
病理：155909　岡村　卓也
(獨協医科大学埼玉医療センター)
承認された。
2) 輸血検査研究班実技講習機材の事務所での保管について
運搬・管理を研究班が行うことで承認された。

5　精度保証部
1) 特になし。

6　会計部
1) 事務員の冬季賞与について
承認された。

7　精度管理委員会
1) 特になし。

8　第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会
1) 特になし。

9　第46回埼玉県医学検査学会
1) 学会長、実行委員長、副実行委員長、学術部長にJAMTISの学術権限を付与することで承認された。

Ⅳ. 議題
1) 特になし。
以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ　と　が　き

先日、私が勤務している病院関連の研修会が開催されました。当院が企画・運営を担当し、20施設程の臨床検査技師の皆様が参加され、各種講演やアンケート集計、懇親会等が盛会のうちに終了しました。今回の企画・運営は、当院検査部・病理部の若手が中心となって進めていきました。10月に開催された日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会でも若手の企画力・実行力・知識に感心しましたが、今回の研修でも同様な感想を持ちました。自分が若い頃を思い返してみても（思い返せないほど遠い昔ですが･･･）ただただ感心するばかりです。

しかし、感心しているだけでは、進歩がない！年齢と共に衰える部分は否めませんが、いい意味で若い力に負けないよう頑張っていこうと思います。

この拙文が掲載されるのは新年１月号です。

『旧年中は大変お世話になりました。本年もどうかよろしくお願いいたします！』

（長岡　記）